

神のおとずれ

日本聖公会 神戸教区報



2018年
4月号

発行所
神戸教区事務所
TEL 078(351)5469
FAX 078(382)1095
<http://www.nskk.org/kobe/>

発行責任者
司祭 小南 晃

印刷所
文明堂印刷所

春の日差し復活日

司祭 オーガスチン 與賀田 光嗣



日本と比べてイギリスの緯度は高い位置にあります。そのためイギリスの冬は長く、暗い時間が一日の大半を占めます。夕方四時にはもう真っ暗となります。

昨年の冬至は12月21日です。から、クリスマスはまさに暗闇の中で行われます。イエス様のお誕生を暗闇の中で祝われることは実に象徴的です。イエス様は若く貧しい夫婦のもとにお生まれになりました。

た。その誕生は決して恵まれたものではありませんでした。時の権力者に庶民達は翻弄され、身重だった妻マリアと共に夫ヨセフは旅にでなくてはなりません。出産前後、しかし宿屋はどこも満員で、彼らはやつのことで馬小屋を借り、そこでイエス様がお生まれになったのです。赤ちゃんというものは実に弱く、人間の愛なしに生きることはできません。赤ちゃんの存在は、私達に「愛する」ということを教えてくれます。と同時に、その弱い赤ちゃんの「温もり」は、強い立場である大人の私達に、「愛」というものを伝えてくれるものです。

「命は人間を照らす光であった。光は暗闇の中で輝いている。暗闇は光を理解しなかった」(ヨハネによる福音書第1章4-5節)という聖書の一節が、真冬の世界に響きます。かくして冬が終わり、春が近づいてきます。イギリスではほとんど日が長くなり、太陽の眩しさと温もり、また春の花々や冬眠から目覚めたリスやウサギなどの動物が、命の豊かさを感じさせます。今年の春分の日は3月21日です。から、イースターは春分の日の後の最初の満月の次の日曜日です。から、4月1日となっています。ちなみにイギリスでは春分みと言わずにイースターホリデーと言っています。毎年その期間が変動します。生活の暦においても、イギリスがキリスト教国であることを実感する時期です。

イースターがこの春にあるのもまた象徴的です。私達は時には愛の意味に気づかされ、励まされることがあります。ですが、愛すること、愛されることに、いつの間にか慣れていってしまい、愛の意味を忘れてしまいます。自分は強い人間だと思い込み、自分の弱さを様々なもので覆い隠してしまいます。社会的地位や学歴や金銭、あるいは特定の正しさを振りかざし、自分を正当化しだすのです。それは真昼の暗闇です。明るさの中で、自分は物事がよく見えている、という思い込みからなる暗闇です。イエス様はまさに真昼の暗闇の中、人々の手によって十字架にかけられました。ですから私達が自分自身の正しさによって誰かを傷つけるとき、自分自身の弱さから目を背けると、愛の意味を忘れようとするとき、それは主イエスを十字架にかけるときに他ならないのです。十字架を仰ぐとき、そこには両手両足に釘打たれた主の姿があります。その傷は私達によって付けられた物です。その傷は誰かの傷であり、私

達が生きて負った傷でもあります。復活日の朝、主イエスはご自分を裏切った人たちのもとへ再び来られました。十字架から逃げ出した弟子達は、自分のしたことから目を背けるために、家の戸に鍵をかけていました。「そこに、イエスが来て真ん中に立ち、『あなたがたに平和があるように』と言われた。そう言って、手とわき腹とお見せになった」(ヨハネによる福音書第20章19-20節)のです。その傷ついた手で主イエスは弟子達に触られます。彼らに「温もり」が伝わります。救いの意味が、愛の光が、彼らの暗闇の世界に再び灯るのです。愛の光は常に私達と共にあります。たとえ私達がどんな暗闇の中にあつたとしても、私達の手には「温もり」が与えられています。春の日差しの中、私達に与えられた愛の意味を深く覚え、日々を歩まれることを祈り願う次第です。ご復活おめでとうございます。(立教英国学院チャブレン)

第6回U26(ユージロー) 全国集会を開催

2月23～25日まで京都府宇治市にあるアクトバル宇治で第6回U26全国集会が開催されました。U26とは「知る、つながる、教会の絆」をスローガンに活動する全国規模の青年グループです。このU26を通して、個々の教会や教区を越えたくさんの仲間を知り、つながりを深め、そして神様を中心に教会の絆を深めることを目指しています。

今大会のテーマは「響(ひびき)」でした。初日にはテーマについての分かち合いがありました。響きという音を連想させたり、影響や反響などの意味もあり、自分達の考えや経験をもとに話をしました。教会で聞く聖歌が好きという人や、キャンプで仲間に影響を受けたなど、自分も教会に通っている中で共感できることがたくさんありました。

2日目の分かち合いでは教会とのつながりやそのきっかけという話から様々な話になりました。私が印象に残っているのは、神様ってどこにいるのだろうという話でした。この話では2つの意見がありました。一人ひとりの心の中

にいて正しい道を示してくれるという意見と、とにかく遠く高いところにいて私たちを導いてくれるという意見でした。どちらが正しくてどちらが間違っているというのではないと思いますが、みんなが同じ聖書を読んでいるのにそれぞれ感じ方や捉え方が違うんだなと新たな気づきが与えられた時間でした。



集会では、分かち合いの他に聖書研究や教区の活動紹介、レクリエーションなどもありとても楽しく有意義な時間を過ごすことができました。その中で1つ嬉しかったことがありました。今回が初参加の青年がいました。ただ過去に会ったことのある青年だと思っ話をしてみると、以前神戸教区の第50回中高生大会に東北

教区から参加をしてくれた青年でした。神戸教区のキャンパスで会って次に教区を超えた集まりで再会できたこと、私はいここで教会や神様とつながることにより素敵なつながりが生まれるんだと改めて実感しました。私自身も他教区の青年と関わり話をするのでたくさん刺激をもらっています。もつと教区内の青年にもこのような集会に参加してもらいたいし、教会や神様とのつながりについて考える時間があればいいと思います。

(小林真綾・神戸聖ミカエル教会信徒)

教会巡礼 松山聖アンデレ教会

松山聖アンデレ教会の礎を築いたのは、英国聖公会SPGのウイリアム・アーサー・リチャーズ宣教師である。同師は、信徒の自宅で週日の集会や毎主日の聖餐式を守り、平均出席者は10名を数えた。

1933年には教会の建築が進められ、同年12月16日に二階建ての牧師館を持つ聖堂が完成し、バジル主教により

聖別された。この建物は、以降70年間にわたって、松山の地で宣教牧会の業に用いられることとなった。

1995年に、藤井尚人司祭のもとで、「平成の大改修・人の家より神の家」を合言葉に、大規模なリニューアルを敢行した。ところが、2001年3月24日に起きた芸予地震によって、松山市は震度5強を記録し、教会の建物、特に聖堂は大きなダメージを受けたが同年11月までに聖堂の修復を終えて、会館・牧師館の建築に着手し、2003年7月5日に瀬山会管理牧師のもと、教会の会館・牧師館は落成の日を迎えた。そして日頃の地道な保全活動によって、松山の街に残る唯一の煉瓦造りの聖堂は、今も地域社会に親しまれている。

柳本博人司祭が着任した2013年に、当教会は、『松山の地に在って、Anglican Churchに属する聖公会として、神様の栄光を現すために、開き・集い・招く教会であることを目指す』というビジョンを策定した。現在、その実現を目指して、『主日、聖日等、公会暦に従い、また、その他のあらゆる機会に礼拝を献げる』、『教会メンバー、地域社会の方々、その他、教会と触れ

合うチャンスを持たれた方々と共に、学びの時、交わりの時を、恒常的に持ち続ける』、『教会に集うことは、自分が、神の栄光を現すことを目指す教会の掛け替えのないスタッフの一人として、神様から選ばれた《恵》であることを覚えて、礼拝その他の集いに出席する』、『自分が教会に招かれた時の記憶と喜びを思い起こし、今度は、自分が、それぞれの時に、あらゆるチャネルを駆使して人を招く』、『教会が主日のみの場である』という意識の改革を図り、信仰と日常の一致を目指す』の各アクションプランを進めている。



オーガスタのまなざし



主教 小林 尚明

宣教

一昨年の9月、神戸教区は宣教140年記念行事を行いました。その時発表された各教会のビジョン、アクションプランは、その後、どうなっていますか。全体的に息切れ状態かもしれません。何が足りないのでしょうか。

日本聖公会の首座主教植松誠北海道教区主教が、昨年の教区会(11月23日)でお話しされた主教告辞が北海道教区報に掲載されました(興味のある方は各教会の牧師まで問い合わせてください)。PDF版で届けてあります。

北海道教区は六つの優先着手課題を決めて取り組んでこられたようですが、効果的な宣教の結果を生み出していない状態だそうで、「その問題を突き詰めていくと、いったい私たちはどのような信仰者であるのか」というところまで問われていきます。私たちにとって信仰とは、福音とは、教会

とは、礼拝とは、献金とは何なのか。はたして私は信仰を生きているという喜びや感謝の中にいるのか。そのような自分の在り方を脇において宣教を考えても、それはあまり意味のないことだと思えます。宣教とは私たちの生き方そのもので「す」と語られ、また「宣教とは、第一義的には、自分の信仰の証しです」と語られていました。この植松主教様の告辞を読ませていただいて、同じことが私たちの教区にも言えるのではないか、と思つた次第です。

信仰の証し

徳島県阿南市にある富岡キリスト教会にいた時の事です。ある中年のご婦人が「洗礼を受けたい」と来られました。

「何故ですか」とお尋ねしますと、「私たち夫婦が大変な状況になった時、義母に相談したことがありました。すると義母は、『大丈夫よ、私が神様にお祈りしてあげるから、大丈夫』と言ってくれました。その義母の言葉を信じて頑張ってきました。何とか状況もよくなつて、あの義母の神様に對する信頼と信仰を自分も欲しいと思つたのです。」と教えてくださり、洗礼を受けられました。これが信仰の証しです。

(神戸教区主教)

教会建築シリーズ

徳山聖マリア教会編

教区の皆様には当教会の建築事業のため、お祈りとご協力を頂きありがとうございます。一昨年11月の竣工から2年目の歩みを始めております。また連続して収獲感謝献金をおささげ頂き、心より御礼申し上げます。今回はシリーズ徳山版の最終回として、感謝を込めて教会の今をお伝えします。



旧会館から継続した活動の一つに主日礼拝後の愛餐会(昼食会)があります。設計の目玉であるオープン

キッチンで「作る・配る・食べる・片付ける」を、日曜学校生徒・保護者、もちろん信徒を含め全員参加で行っています。



また平日には料理教室、韓国語教室、ハンドメイド教室、カフェが開かれています。

これらの活動に加え、1月から「マリアマルシェ」と題して幼稚園・日曜学校保護者、地域の手芸サークルが集い、ブースを作つて活動発表や実演、手芸品の販売などを行っております。

直接、宣教にはならないと思われがちな活動ですが、まず地域の方々に新しい会館を知っていただく事を目指し、一人でも足を運んでいただければ、誰かにつな

がるのではないかと祈っております。

会館設計のもう一つの目玉は、ガスコージェネレーションシステムです。会館での活動が活発になる事は大きな喜びですが、人が集まれば光熱費が気にかかります。これは都市ガスを小型のエンジンで発電し、その熱でお湯を沸かすという地球にやさしい一石二鳥のシステムです。全館LED照明の採用と合わせ、建築前の光熱費から約三分の一のカットを実現して教会運営に貢献しています。

最後になりましたが改めて、教区内外・聖公会の皆様への祈りとお力添えに感謝いたします。この感謝を宣教・伝道に結び付けてゆきたいと思えます。また機会があれば、ぜひ「おいでませ!」徳山聖マリア教会へ。

(建築実行委員長・田口安雄)

神戸教区 ホームページ

神戸教区内の教会の情報は、ホームページからご覧になれます。また大聖堂の礼拝の生中継もご覧いただけます。

<http://www.nskk-kobe.org/>

鳩だより
《敬称略》

祝洗礼

2月11日(日)
エリザベス 曾山 佑利香
神戸聖ミカエル教会

祝堅信

2月11日(日)
エリザベス 曾山 佑利香
神戸聖ミカエル教会

ご逝去

2月19日(月)
マリヤ 三宅 初枝
倉敷聖クリストファー教会

3月2日(金)
ヨハネ 北中 愛海
神戸聖ミカエル教会

教籍移動

2月11日(日)
グレース 中村 陽子
京都教区聖三一教会より
神戸聖ミカエル教会へ



広瀬基督教会
建築献金「継続」のお願い

昨年3月に再建された広瀬基督教会の礼拝堂の建築献金を教区の皆さまにお願いいたしました。多くの皆様から献金をお送りいただきありがとうございます。期限の12月末までにお寄せいただいた結果は以下の如くです。

目標.. 423万円
結果.. 177万4,162円

残念ながら目標に届かず、資金が不足いたしましたので、常置委員会で協議した結果、募金期間を6か月延長し、再度皆さまのご協力をお願いする次第です。

日本聖公会神戸教区
広瀬基督教会
建築献金

振替口座(ゆうちょ銀行)
01100-9-17568
(2018年6月末まで)

5月の教区関係教役者
逝去記念聖餐式

日時 2018年5月17日(木)
午前10:30
場所 神戸聖ミカエル大聖堂
司式 主教 小林 尚明
説教 司祭 瀬山 公一

* 5月の記念逝去教役者

2日	司祭	覚前 政蔵
5日	宣教師	ヴァイオレット ヘッド
6日	司祭	吉本要太郎
10日	司祭	フランク ウェストン
14日	伝道師	マリヤ 松山 初子
16日	司祭	パウロ 韓 浩
19日	主教	パウロ 八代 欽一
22日	司祭	ペテロ 長澤 四郎
24日	司祭	ヨハネ 村上 豊吉
24日	司祭	パウロ 大塚 磐
26日	司祭	末吉 萬吉
27日	司祭	バルナバ 阪村 達雄
28日	司祭	バルナバ 與賀田千秋
29日	司祭	アーネスト ハッチントン
30日	宣教師	メイブル バーグス

霊操研修のご案内

目的: 聖職の召命を見つめ直し、
主イエスからの慰めと励まし、
癒しを与えられるため

講師: イエズス会 清水弘神父

日程: 2018年9月25日(火)
~10月3日(水)

場所: イエズス会聖ヨハネ修道院
(長束黙想の家)
広島市安佐南区長東西2-1-36

費用: 教役者 無料
(交通費も教区で負担します)
信徒 46,400円(5,800円×8日)

※「霊操」とは…

イエズス会の創始者イグナチオ・ロヨラが考案した黙想方法。創造、死、イエスの生涯、十字架と復活などのテーマに合わせ1ヶ月で黙想しますが、今回は1週間で行います。聖職・信徒としての自分を神様と共にみつめ直す機会として、是非ご参加ください。